

平成26年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年11月8日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第1四半期の業績(平成25年7月1日～平成25年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第1四半期	438	△3.2	101	△3.6	105	△4.7	81	22.0
25年6月期第1四半期	453	△0.3	104	△24.6	110	△22.2	66	△20.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年6月期第1四半期	54.42		—					
25年6月期第1四半期	44.60		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年6月期第1四半期	7,874	7,285	92.5
25年6月期	7,908	7,275	92.0

(参考) 自己資本 26年6月期第1四半期 7,285百万円 25年6月期 7,275百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	65.00	65.00
26年6月期	—	—	—	—	—
26年6月期(予想)	—	0.00	—	66.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年6月期の業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	949	6.4	265	33.7	277	30.4	173	34.4	115.86
通期	1,900	9.8	514	36.3	536	33.7	328	34.2	218.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年6月期1Q	1,500,000株	25年6月期	1,500,000株
26年6月期1Q	78株	25年6月期	78株
26年6月期1Q	1,499,922株	25年6月期1Q	1,499,999株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、国内の景気回復機運が徐々に高まるなか比較的堅調に推移しました。為替水準が対ドルレートで1ドル90円台後半で落ち着き輸出比率の高い国内製造業の業績は回復基調になり、国内の経済状態も金融緩和・財政政策で景気回復のきっかけを掴み製造業全般の業況判断は好転してきています。また好調を維持する北米市場では消費意欲が旺盛であり、自動車や不動産などの売れ行きも好調で世界景気を牽引しています。関係が悪化していた日中関係も落ち着きを取り戻しつつあり、中国での日本製品の売上も回復傾向を示してきています。新興国については経済成長率が急速な成長から巡航速度へと落ち着いてきましたが、依然として潜在成長力の高さは世界の消費市場を下支えしています。日本国内では、2020年のオリンピックの東京開催が決定し首都圏の老朽化した社会インフラの整備、将来の都市構想をもとにした新たな社会インフラ構築の契機となる可能性が高く今後数年にわたりものの動きが活発になると思われ、製造業において明るい兆しが出てきています。

このような状況を受け当社のコレットチャック部門では、自動車部品加工業界や高機能素材・部品業界などで機械稼働率が高まったこと、一部で設備投資に前向きな動きが出てきたことなどから今年の5月を底に受注は回復してきました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は300,108千円(前年同期比3.7%減)セグメント利益は141,080千円(前年同期比4.8%減)となりました。

切削工具部門では、顧客層が量産加工から単品加工まで、また幅広い業種に分散しているため受注の波は比較的少なくほぼ横ばいで推移しました。その結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は128,551千円(前年同期比0.3%減)、セグメント利益は25,152千円(前年同期比6.9%増)となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤の現存台数が限られていること、この機械を使用する量産品加工が限定されていることなどで当部門の受注は減少しました。その結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は9,958千円(前年同期比19.9%減)、セグメント利益は4,307千円(前年同期比15.1%減)となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は438,619千円(前年同期比3.2%減)、営業利益は101,195千円(前年同期比3.6%減)、経常利益は105,562千円(前年同期比4.7%減)、四半期純利益は81,637千円(前年同期比22.0%増)となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。(％表示は対前年同期比)

事業部門別	期別	第23期 第1四半期 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)		第24期 第1四半期 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)		第23期 (自平成24年7月1日 至平成25年6月30日)	
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門		311	(97.5)	300	(96.3)	1,176	(90.0)
切削工具部門		128	(106.5)	128	(99.7)	514	(100.3)
自動旋盤用カム部門		12	(92.1)	9	(80.1)	39	(70.3)
合計		453	(99.7)	438	(96.8)	1,729	(92.2)

(2) 財政状態に関する説明

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は4,556,380千円(前事業年度末は4,588,226千円)となり31,846千円の減少となりました。これは受取手形及び売掛金が8,952千円増加しましたが、現金及び預金が32,836千円、繰延税金資産が4,050千円減少したこと等によるものであります。

また当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は3,318,429千円(前事業年度末は3,320,544千円)となり2,114千円の減少となりました。これは機械装置及び運搬具が17,881千円増加しましたが、投資有価証券が13,777千円、建物及び構築物が5,100千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は7,874,810千円(前事業年度末は7,908,770千円)となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は185,114千円(前事業年度末は247,317千円)となり62,203千円の減少となりました。これは未払金が31,424千円増加しましたが、未払法人税等が77,607千円、その他が11,891千円減少したこと等によるものであります。

また当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は404,533千円(前事業年度末は386,251千円)となり18,282千円の増加となりました。これは長期繰延税金負債が8,706千円、退職給付引当金が7,325千円、役員退職慰労引当金が2,250千円増加したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は589,647千円(前事業年度末は633,569千円)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は7,285,162千円(前事業年度末は7,275,201千円)となり9,960千円の増加となりました。これは利益剰余金が15,857千円減少しましたが、その他有価証券評価差額金が25,818千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、平成25年8月9日発表の業績予想どおりとなる見込であります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,987,543	3,954,706
受取手形及び売掛金	361,950	370,902
製品	4,510	3,741
原材料	31,396	30,618
仕掛品	179,941	178,946
繰延税金資産	25,825	21,775
その他	1,281	1,212
貸倒引当金	△4,223	△5,522
流動資産合計	4,588,226	4,556,380
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	626,227	621,126
機械装置及び運搬具(純額)	682,265	700,146
土地	319,337	319,337
その他(純額)	6,793	6,145
有形固定資産合計	1,634,622	1,646,756
無形固定資産		
投資その他の資産	6,925	6,521
投資有価証券	1,678,516	1,664,738
その他	818	752
貸倒引当金	△339	△339
投資その他の資産合計	1,678,995	1,665,151
固定資産合計	3,320,544	3,318,429
資産合計	7,908,770	7,874,810
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,528	14,642
未払金	71,072	102,497
未払法人税等	125,389	47,782
役員賞与引当金	7,700	1,457
その他	30,626	18,735
流動負債合計	247,317	185,114
固定負債		
退職給付引当金	322,043	329,369
役員退職慰労引当金	52,740	54,990
繰延税金負債	11,468	20,174
固定負債合計	386,251	404,533
負債合計	633,569	589,647

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	6,518,130	6,502,272
自己株式	△196	△196
株主資本合計	7,147,833	7,131,976
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	127,367	153,186
評価・換算差額等合計	127,367	153,186
純資産合計	7,275,201	7,285,162
負債純資産合計	7,908,770	7,874,810

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
売上高	453,063	438,619
売上原価	279,114	270,746
売上総利益	173,948	167,872
販売費及び一般管理費	68,949	66,677
営業利益	104,998	101,195
営業外収益		
受取利息	249	270
有価証券利息	126	126
受取配当金	2,006	2,274
貸倒引当金戻入額	1,383	—
その他	2,019	1,695
営業外収益合計	5,784	4,366
経常利益	110,783	105,562
特別利益		
投資有価証券売却益	—	22,930
特別利益合計	—	22,930
特別損失		
有形固定資産売却損	66	2
有形固定資産除却損	56	—
特別損失合計	123	2
税引前四半期純利益	110,659	128,491
法人税、住民税及び事業税	56,300	48,000
法人税等調整額	△12,544	△1,146
法人税等合計	43,755	46,853
四半期純利益	66,904	81,637

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第1四半期累計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	311,730	128,898	12,434	453,063	—	453,063
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	311,730	128,898	12,434	453,063	—	453,063
セグメント利益	148,159	23,528	5,073	176,761	△71,762	104,998

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,813千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II. 当第1四半期累計期間(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	300,108	128,551	9,958	438,619	—	438,619
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	300,108	128,551	9,958	438,619	—	438,619
セグメント利益	141,080	25,152	4,307	170,540	△69,345	101,195

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,668千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。